

キャリア教育、職業教育の推進

1 現状

① 高校生の進路状況

平成29年度の三重県の高等学校卒業者の進路状況は大学等進学者が50.6%、専修学校が14.5%、各種学校等が4.6%、就職者が27.3%、それ以外が2.9%となっています。全国の就職者の割合17.6%と比較すると、9.7ポイント高くなっています。

＜県内高等学校の進路状況（全日制・定時制）＞

文部科学省調べ

年度	大学等進学者		専修学校 (専門課程)		専修学校 (一般課程) 各種学校 公共職業能力開発施設 等入学者		就職者		左記以外		卒業 者数	全国 就職者 の割合
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合		
H29	7,937	50.6%	2,279	14.5%	726	4.6%	4,291	27.3%	462	2.9%	15,695	17.6%
H28	8,252	50.9%	2,431	15.0%	719	4.4%	4,349	26.8%	463	2.9%	16,212	17.9%
H27	8,057	50.5%	2,374	14.9%	730	4.6%	4,238	26.6%	555	3.5%	15,952	17.8%

＜県内高等学校の普通科及び主な職業学科における進路状況（全日制・定時制）＞

高校教育課・私学課調べ

年度	学科	大学等進学者		専修学校 (専門課程)		専修学校 (一般課程) 各種学校 公共職業能力開発施設 等入学者		就職者		左記以外		卒業 者数
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
H29	普通	6,532	63.6%	1,440	14.0%	631	6.1%	1,328	12.9%	332	3.2%	10,263
	農業	67	11.4%	97	16.4%	7	1.2%	410	69.5%	9	1.5%	590
	工業	169	10.8%	124	7.9%	13	0.8%	1,246	79.3%	19	1.2%	1,571
	商業	297	28.9%	194	18.9%	12	1.2%	504	49.1%	19	1.9%	1,026
H28	普通	6,821	63.5%	1,543	14.4%	621	5.8%	1,435	13.4%	327	3.0%	10,747
	農業	81	13.6%	124	20.9%	6	1.0%	370	62.3%	13	2.2%	594
	工業	200	12.6%	107	6.7%	19	1.2%	1,252	78.9%	9	0.6%	1,587
	商業	287	27.5%	210	20.1%	17	1.6%	517	49.6%	12	1.2%	1,043
H27	普通	6,710	63.4%	1,575	14.9%	588	5.6%	1,289	12.2%	422	4.0%	10,584
	農業	63	10.4%	104	17.2%	7	1.2%	419	69.3%	12	2.0%	605
	工業	177	11.2%	114	7.2%	9	0.6%	1,263	79.9%	18	1.1%	1,581
	商業	266	26.6%	172	17.2%	23	2.3%	524	52.3%	16	1.6%	1,001

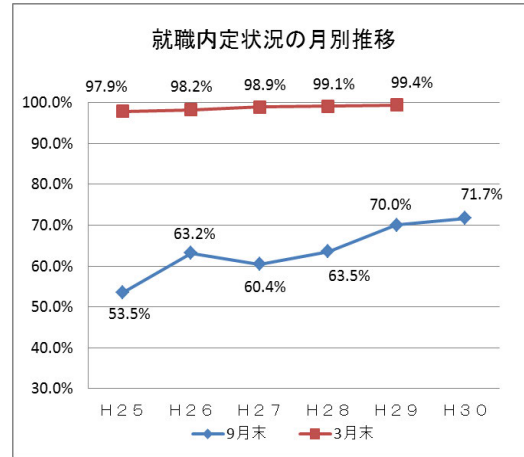
② 県立高等学校卒業（予定）者の就職内定状況（全日制・定時制）

平成31年3月の県立高等学校卒業予定者の9月末現在の就職内定状況は、71.7%で調査結果が残っている平成11年度以降最高の数値となりました。

＜県立高等学校卒業（予定）者内定状況（全日制・定時制）＞

高校教育課調べ

年度		9月末	3月末
H30	内定率	71.7%	
	就職希望者	4,221	
H29	内定率	70.0%	99.4%
	就職希望者	4,170	4,087
H28	内定率	63.5%	99.1%
	就職希望者	4,249	4,182
H27	内定率	60.4%	98.9%
	就職希望者	4,243	4,112
H26	内定率	63.2%	98.2%
	就職希望者	4,257	4,167
H25	内定率	53.5%	97.9%
	就職希望者	4,110	4,001



③ 高等学校卒業者の卒業後3年以内の離職率

県内事業所に就職した平成26年3月高等学校卒業者の卒業後3年以内の離職率は37.5%で、全国の離職率40.8%より3.3ポイント低くなっていますが、卒業後3年以内に4割近くが離職する状況が続いています。

＜高等学校卒業者の卒業後3年以内の就職率＞

厚生労働省・三重労働局調べ

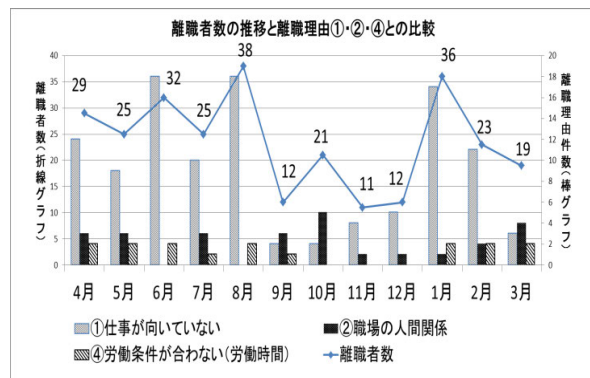
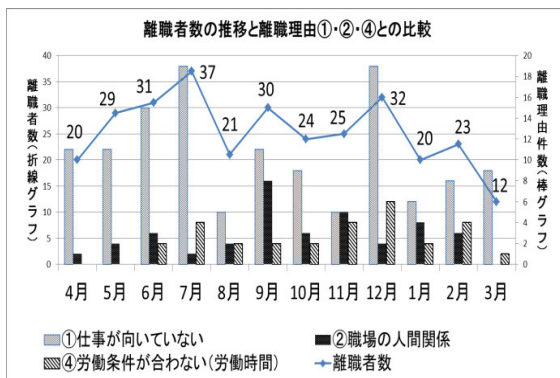
		就職者 人	1年目		2年目		3年目		3年目までの計		
			離職者	離職率	離職者	離職率	離職者	離職率	離職者	離職率	
H26.3 卒	三重県	計	3,188	582	18.3	330	10.4	284	8.9	1,196	37.5
		男	1,831	289	15.8	160	8.7	142	7.8	591	32.3
		女	1,357	293	21.6	170	12.5	142	10.5	605	44.6
	全国	計	170,591	33,284	19.5	20,418	12.0	15,850	9.3	69,552	40.8
		男	100,382	17,021	17.0	10,359	10.3	8,172	8.1	35,552	35.4
		女	70,209	16,263	23.2	10,059	14.3	7,678	10.9	34,000	48.4
H27.3 卒	三重県	計	3,248	494	15.2	342	10.5			836	25.7
		男	1,895	244	12.9	140	7.4			384	20.3
		女	1,353	250	18.5	202	14.9			452	33.4
	全国	計	178,129	32,363	18.2	20,483	11.5			52,846	29.7
		男	105,716	16,652	15.8	10,423	9.9			27,075	25.6
		女	72,413	15,711	21.7	10,060	13.9			25,771	35.6
H28.3 卒	三重県	計	3,144	493	15.7					493	15.7
		男	1,812	224	12.4					224	12.4
		女	1,332	269	20.2					269	20.2
	全国	計	178,365	30,753	17.2					30,753	17.2
		男	105,839	15,680	14.8					15,680	14.8
		女	72,526	15,073	20.8					15,073	20.8

県教育委員会では、企業等で管理職や人事部門等の経験等を有する外部人材を職場定着サポーターとして任用し、学校及び生徒のニーズに応じた就職支援及び職場定着支援を行っています。

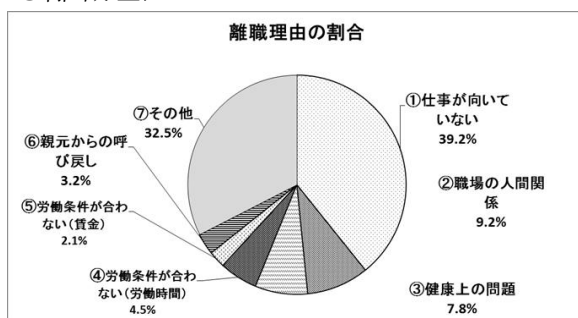
平成28年度、29年度の2カ年において、職場定着サポーター18人が、配置されている高等学校（34校）の新規高卒就職者約2,000人の職場定着状況について企業等から聞き取り調査を行ったところ、平成28年3月卒業生で15.1%、平成29年3月卒業生で13.9%が卒業後1年以内に離職していました。

離職理由としては、「仕事が向いていない」、「職場の人間関係」等が上位を占めています。

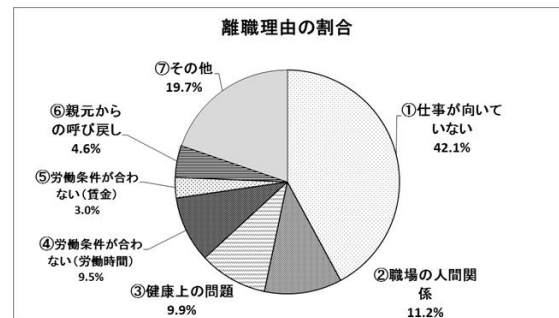
<平成28年度・29年度における新規高等学校卒業生の離職状況> 高校教育課調べ
○離職時期の比較



○離職理由



【平成28年度3月卒業生】



【平成29年度3月卒業生】

2 地域や産業界のニーズ

- 急速な少子高齢化による生産年齢人口の減少により、将来にわたって活力ある社会を維持していくためには、地域の産業や社会を担う人材の育成がこれまで以上に重要になっています。
- 産業界からは、キャリア教育において、本物の仕事・ビジネスについて考えたり触れたりする経験を更に充実させるため、「工場・職場見学」、「インターンシップ」や、より本物の仕事・ビジネスに近い、企業や地域団体等と連携した事業アイデアの検討、ビジネスプランの作成・コンテスト、起業体験等の取り組みを一層推進することが求められています。

(「中部圏の未来を支える人材の育成」一般社団法人中部経済連合会2017年12月)

- 厚生労働省の「職種別労働者の過不足状況判断」（平成27年2月）によると、全体として労働者不足であるが、特に専門・技術職が不足しており、長期的にも、専門・技術職が不足傾向であると示されています。

3 子どもたちを取り巻く社会状況

(1) グローバル化・情報化等の進展による社会の変化

① グローバル化の進展

国際的にモノ、カネ、ヒト及び情報の移動が活発化している上、国際社会における主体の多様化、国際関係の多様化等が経済分野のみならず、政治、社会、文化等の様々な分野において地球規模の影響をもたらしています。

特に経済面においては、資本や労働力の国境を越えた移動が活発化するとともに、貿易を通じた商品・サービスの取引や、海外への投資が増大することによって、地球規模で経済的な結びつきが深まる一方、海外との国際競争力を強化し、経済成長を実現するためには、成長分野でのイノベーションを進め、新産業分野を創出することが喫緊の課題となっています。

② 情報化の進展

単純な作業は急速に機械化され、若者の「仕事の質」が高度化しているだけでなく、製品や技術のライフサイクル短縮化により「持続的な学び」の必要性が増大しています。

また、ネットワークでデータのやりとりや大量のデータを用いた新たな価値の生産、多様かつ複雑な作業の自動化など、これまで現実不可能とされていた社会の実現が可能となり、今後、社会構造や雇用環境は大きく変化し、人工知能（以下、AIという。）が様々な判断を行ったり、身近な物の働きがインターネット経由で最適化されたりするIoTが広がるなど、Society5.0とも呼ばれる新たな時代の到来が社会や生活を大きく変えていくという予想がされています。

③ 少子高齢化の進行

2030年には日本の総人口の3割が65歳以上の高齢者となり、さらに50年後には総人口が現在より、約3割減少し、65歳以上の割合が総人口の約4割に達する見込みです。それにともない、生産年齢人口も減り続け、2030年には、総人口の約58%となり、2060年には約半数まで減少する見込みです。

また、2030年には、世界のGDPに占める日本の割合は、2010年には5.8%だったものが3.4%まで低下するとの予測もあり、日本の国際的な存在感の低下が懸念されています。

(2) 変化が激しい社会で必要とされる力

- グローバル化が加速する中で、自分とは異なる文化や歴史に立脚する人々と共存していくために、自らの国や地域の伝統や文化についての理解を深め、尊重する態度を身に付けることが重要になってきています。

- 子どもたちの65%は将来、今は存在していない職業に就く（キャシー・デビッドソン ニューヨーク市立大学大学院センター教授）との予測や今後10年から20年程度で、半数近くの仕事が自動化される可能性が高いなどの予測があります。しかし、抽象的な概念を整理・創出するための知識が要求される職業や他者と協働する職業はAI等での代替が難しい傾向にあると考えられます。
- 産業界が学校教育に期待することとして、知識よりも感性や創造力、課題解決力、他者と協働する力を育む教育が挙げられています。

（中部経済連合会アンケート調査 実施期間：平成29年5月～6月、667社）

- これからの社会を担う子どもたちに必要とされる力を育むには、学校での学びだけではなく、地域を知り、地域や多様な人と関わり、実社会で様々な経験を重ねる必要があります。このため、生徒が地域課題や地域の特色ある産業を通じて地域住民や職業人と関わりながら、これからの社会の変化に対応できる「生きる力」を育むキャリア教育を検討していく必要があります。

4 本県におけるキャリア教育の取組

本県では、各学校で子どもたちが学校での学習と自分の将来との関係に意義を見いだして学ぶ意欲を高めるとともに、学校での学びが社会に役立てられるよう、子どもの発達段階や地域の実態に応じた系統的なキャリア教育を推進しています。

<小学校>

生活科や社会科、総合的な学習の時間等において、町探検や職業調べ、職場見学等をとおして、地域や地域産業への興味関心を喚起し、理解を深め、働くことの大切さについて学んでいます。

<中学校>

総合的な学習の時間等において、地域の職業人等の話を聞き、職業に対する理解を深め、職場体験学習で社会に接することで、将来の生き方や働き方について目標を立てて計画的に取り組む態度を育成しています。なお、中学校では、全ての生徒が地域の事業所で職場体験を実施しています。

<高等学校>

県教育委員会では、平成25年度から平成27年度にかけて、キャリア教育モデルプログラムの作成とキャリア教育実践事例集を作成し、高等学校において学校の特色に応じた計画的なキャリア教育の取り組みを進めています。

高等学校では、キャリア教育の全体計画にもとづき、高等学校卒業の就職及び大学等進学後の将来をイメージできるよう、インターンシップや職業人講話等をとおして、自身の適性を知るとともに主体的に進路選択できる力を育成しています。

(1) 発達段階に応じたキャリア教育の推進

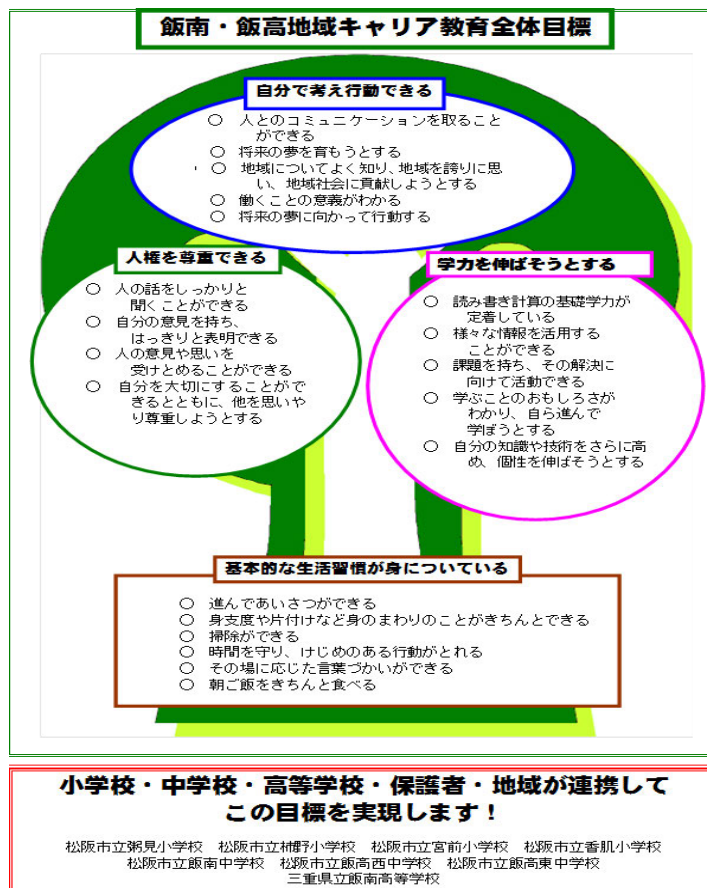
- 小中高等学校が連携した取組

松阪市飯南地域では、地域の子どもたちに付けたい力について、小中高等学校

の教員で議論を重ね、「飯南・飯高地域キャリア教育全体目標（系統樹）」を作成しています。

【飯南・飯高地域キャリア教育全体目標（系統樹）】

学校・保護者・地域が一体となって高校生による出前授業や教員の交流授業、地域の特色を生かした授業等、12年間で子どもを育てるキャリア教育を行っています。



（2）就業体験等の充実

○伊賀市柘植小学校の取組

柘植小学校では、自身の希望する職業に第5学年と第6学年の2回、1人1事業所で3日間の職場体験を行っています。仕事だけでなく、人との接し方、職場で働く人の仕事への思いなどを学び、自分の就きたい仕事に就くために、これから自分が何をしなければならぬのかを見つめる機会にしています。

職場体験を2回行うことで、1回目に感じた自分の課題を意識しながら、2回目の職場体験に臨むことができます。



【職場体験学習の様子】

○松阪市教育委員会の取組

松阪市では、平成11年度から職場体験を実施しています。現在は、職場体験の事前学習として、職業調べを行ったり、松阪市商工会議所と連携して地域の職業人から話を聞く「わくわくスクール」を実施したりしています。

松阪市立殿町中学校では、2月に2年生を対象に、市内の12事業所と高田短

期大学から講師を迎え、仕事のやりがいや人生について話をしてもらい、3年生の「わくわくワーク（職業体験）」、進路選択へと学びをつなげています。



【わくわくスクール：ゲストティーチャーを招へいした授業】

（3）地域と連携したキャリア教育の推進

本県では、子どもたちの地域への愛着を育むために地域の良さや郷土の豊かな自然、歴史、文化、産業等を理解する取組を進めています。

また、将来、地域で活躍できる力や意欲を育成するため、地域の産業や企業について知る機会を創出することで子どもたちの興味関心を喚起するとともに、地域と連携して地域活性化に参画する取組を行っています。

○昴学園高等学校の取組

昴学園高等学校は、全国唯一の公立全寮制総合学科の高等学校で、2年次以降は自身の興味や進路希望により「国際交流」、「総合スポーツ」、「美術工芸」、「生活福祉」、「環境技術」の5系列に分かれて学習しています。

各系列では、それぞれの特色を生かし、地域と連携したキャリア教育に取り組んでおり、高校生による保育所・小学校・中学校への出前授業の他に、国際交流系列で「まちかつプロジェクト」（大台町等と連携した地域活性化の取組）、生活福祉系列で地域の福祉施設や保育所等での実習やボランティア活動、環境技術系列で地元の休耕地を利用した野菜等の生産や間伐材の利用方法の研究等に取り組んでいます。



【小学校への出前授業：竹とんぼづくり】



【まちかつプロジェクト：事業所への聞き取り】

○伊賀市立緑ヶ丘中学校の取組「なにわ商人体験」

上野商工会議所や伊賀市商工会、JAいがほくぶ、伊賀市社会事業協会等地域との連携により、職場体験学習やなにわ商人体験等を実施しています。

なにわ商人体験では、社会見学で訪れた大阪で伊賀の特産品を販売する活動を

行っています。



【なにわ商人体験：社会見学で訪れた大阪での伊賀の特産物販売の様子】

5 本県における職業教育の取組

職業教育とは、一定又は特定の職業に従事するために必要な知識、技能、能力や態度を育成するものです。

本県では、高等学校の普通科・職業学科・総合学科の割合がおよそ6：3：1となっています。全国と比較すると職業学科の割合は高くなっています。

<本県の設置職業学校数及び学級数（全日制・定時制）>

学科	普通	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	福祉	総合	その他	合計
学校数	43	5	10	8	1	6	1	1	3	8	9	-
学級数	194	15	41	27	2	8	1	2	3	26	6	325

※学級数：平成30年度の第1学年の学級数

<大学科別構成比の割合（％）>

学科	普通 ※1	職業学科										小計	総合
		農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	福祉	その他 ※2			
三重	61.4	4.9	12.4	8.5	0.7	2.6	0.3	0.7	1.0	0.0	31.1	7.5	
全国	69.3	4.2	9.9	6.7	0.5	1.1	0.2	0.1	0.3	0.1	23.2	7.5	

※1 普通には、普通系のその他（理数関係、国際関係、体育関係、芸術関係等）を含む

※2 その他には、職業系のその他（商船、観光等）を含む

職業学科では、各学科の基礎的・基本的な知識や技術が習得できるよう、実験・実習等の実践的、体験的な学習活動に取り組んでいます。

また、地域や学科の特色に応じて、より専門的な知識や技術を身に付けられるよう、企業や大学と連携した学習や産業界で活用できる職業資格の取得等に取り組んでいます。

（1）企業等と連携した実践的な取組

専門高校においては、将来のスペシャリストとなるために必要とされる専門性を育成するために、基礎的・基本的な教育を行うとともに、商品開発や地域での販売実習、熟練技能者による指導等、地域や産業界と連携した取組を行っています。

○四日市商業高等学校の取組

四日市商業高等学校では、1年次で商業の基礎となる簿記・ビジネス基礎・情報処理を学習し、2年次から流通ビジネスや情報処理システム等の5つのコースに分かれて専門的な学習を行い、将来、社会で活用できる力を身に付けられるようにしています。

また、社会で求められる資質・能力を踏まえ、3年次の課題研究等を中心に、生徒のコミュニケーション能力、課題解決力等の育成を図っています。

なお、課題研究では、菰野町商工会、地元企業と連携した湯の山温泉ツアーの企画や、地元商店街における小学生の仕事体験イベント「四日市本町通り商店街ポンポコキッズ」のプロデュース、地元の特産品を使った「すきすき大福」やペットボトル茶「泗水の香り」の商品開発等を行っています。



【情報処理の授業風景】



【泗水の香り店頭販売】

○水産高等学校の取組

水産高等学校は、海洋・機関科、水産資源科の2つの学科からなる県内唯一の高等学校です。

1年次に海洋・機関科では、航海と水産・海洋工学分野の基礎を、水産資源科では、資源増殖分野と食品加工分野の基礎を学んでいます。2年次には5つのコースに分かれて、実習船での航海実習をとおした航海士や機関士等になるための専門的な知識の学習や、水産加工実習をとおした食品衛生に関する学習、地域の特産品である真珠加工に関する学習等を行っています。

また、志摩市と連携したアワビ種苗の放流等の水産資源の保全活動や海洋生物の水族館展示や、地元企業の協力によるカツオ等を活用した商品開発も行っています。



【水産加工の授業の様子】



【航海実習：カツオの一本釣り】

<主な資格試験・コンテスト結果（平成29年度及び30年度）>

高校教育課調べ（平成30年9月末現在）

学科	学校	資格試験・コンクール等結果
農業	・四日市農芸高等学校 ・相可高等学校 ・明野高等学校	・平成30年度グローバルGAP（米）取得予定 ・「ご当地！絶品 第6回うまいもん甲子園」生産局長賞 ・測量士国家試験10人合格 （測量士国家試験における高校生の合格者8年連続全国1位） ・平成30年度グローバルGAP（米）取得予定 ・平成29年度JGAP（茶）取得 （県内高等学校初のJGAP認証）
工業	・四日市工業高等学校 ・四日市中央工業高等学校 ・松阪工業高等学校	・全日本ロボット相撲東海大会 高校生の部自立型 優勝 ・高校生ものづくりコンテスト全国大会 自動車整備部門 準優勝 ・ロボットアメリカンフットボール全国大会準優勝 ・全日本ロボット相撲東海大会 高校生の部ラジコン型 準優勝 ・第3種電気主任技術者試験3人合格 全国第2位
商業	・宇治山田商業高等学校	・全国高等学校IT・簿記選手権大会 IT部門団体の部優勝、個人の部優勝
家庭	・相可高等学校 ・四日市農芸高等学校	・高校生国際料理コンクール金賞 ・きもの作品コンテスト文部科学大臣表彰
看護	・桑名高等学校	・平成29年度看護師国家資格合格率100%
福祉	福祉系高等学校 （朝明高等学校 みえ夢学園高等学校 明野高等学校 伊賀白鳳高等学校）	・介護福祉士国家試験53人合格 （合格率94.6%、全国平均74.9%）

（2）社会の変化に対応した取組

近年のグローバル化や情報化の進展、消費者の食の安全安心への意識や環境保全に対する社会的な関心の高まりなどの、社会の変化や産業の動向等に対応した職業教育が求められています。本県においても、こうした社会の変化に対応した取組を行っています。

○相可高等学校におけるSPH（スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール）

相可高等学校では、平成29年度から平成31年度まで文部科学省からSPHの指定を受け、研究テーマを「三重から世界へ！～『世界で活躍する食のプロフェッショナルの育成』と『グローバル・ブランド』の開発～」とし、海外インターンシップやまごの店の運営等、「世界で活躍する食のプロフェッショナル」の育成をめざした取組を行っています。

海外インターンシップに参加した生徒の声

海外で自分のキャリアデザインを考える中で、就職について海外を含めて考えるようになった。海外へ行ったことで、改めて和食の魅力を感じることができた。日本の食について世界中に広めたい。



【海外インターンシップ：農場見学】



【海外インターンシップ：レストラン研修】

○農業学科におけるGAPの学習

(Good Agricultural Practice：農業生産工程管理)

消費者の食の安全安心への意識や環境保全に対する社会的な関心が高まっていることから、農業学科を設置する5校（四日市農芸高等学校、久居農林高等学校、相可高等学校、明野高等学校、伊賀白鳳高等学校）において、生徒が、将来、消費者に信頼される農業経営者及び地域のリーダーとなる力を身に付けられるよう、国際水準のGAPに関する学習を進めています。



【明野高校：グローバルGAP審査会の様子】



【明野高校：茶刈りの様子】

(3) 地域のニーズを踏まえた職業教育

○四日市工業高等学校専攻科

平成30年4月に開設した四日市工業高等学校のものづくり創造専攻科では、産業界と連携し、幅広い知識や高度な技術を身に付ける実践的な専門教育等を行うことにより、指導力を備え、生産現場でリーダーとなる将来の地域産業の担い手の育成を行っています。

6月末に専攻科棟が完成し、DMG森精機株式会社から無償貸与された同時5軸加工工作機械等、自動制御等が学べる最新の実習機器を整備しています。

<特色ある取組>

- ・ 協働パートナーズとの連携

科目「総合実習」において、毎週、地元企業等での社会人講師による講義を実施しています。協働パートナーズに登録している複数の企業を見学

- ・体験することで、地域の事業所への理解が深まり、地元での就職に対する意欲が高まるともに、専門的で高度な機械を扱うことで技術者としてのスキルも向上しています。
- ・大学と連携した教育
 - 高度で専門的な知識を学ぶため、三重大学教員による授業「機械設計」、「電磁気学Ⅰ」、「機械要素設計」、「電磁気学Ⅱ」を実施しています。
- ・海外インターンシップの実施
 - A S E A N地域において、製造・加工に関する実習に加え、現地従業員との交流を通じて、海外企業で現地の人と働くことや、日本から進出している企業の状況について学習をしています。



【協働パートナーズによる授業】



【海外インターンシップ】

○稲生高校自動車工業類型

地域からの工業系人材育成のニーズを受け、平成29年度の入学生から、これまでのモータースポーツ類型を自動車工業類型に変更し、自動車工学や自動車整備、機械工作等の工業科目を設置して、より工業の専門的な学習ができるようにしており、現在、2年生16人が自動車工業類型を選択しています。

来年度実施する企業実習に向けて、現在、鈴鹿市ものづくり産業支援センターの協力により、受け入れ企業の開拓を進めています。

<特色ある取組>

- ・地域の自動車整備士を特別講師に迎え、専門的で最先端の知識・技術を習得する学習を進めています。
- ・鈴鹿地域職業訓練センターの設備を使用して、ガス溶接の実習を実施しています。
- ・F1日本グランプリの記念イベント「Legend F1 SUZUKA 30th Anniversary」において、プロのメカニックによる走行前の準備や走行後の作業等の見学及び補助作業を実施しています。

○伊賀白鳳高等学校建築デザイン科

建築・土木の専門教育にかかるニーズをふまえ、平成31年4月に現行の「工芸

デザイン科」を「建築デザイン科」に改編し、建築・インテリアコースとデザインコースを設置します。

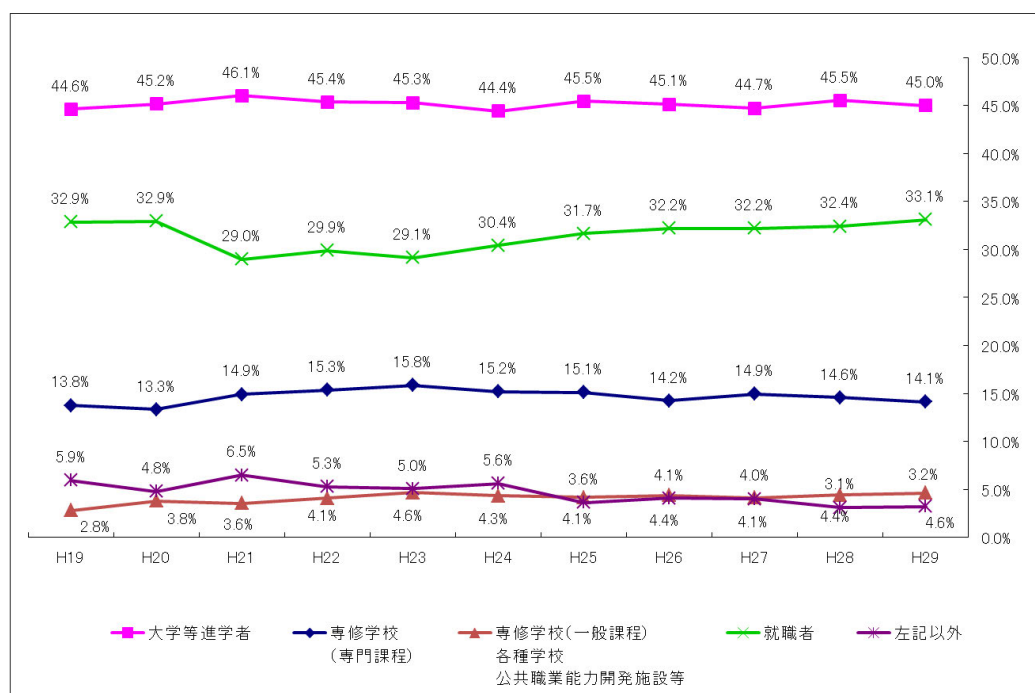
＜学科の特色＞

- ・ 建築・インテリアコースでは、建築分野の科目とインテリア分野の科目を合わせて学習することで、建築設計・施工からインテリアまでの幅広い知識・技能を習得します。
- ・ 資格取得については、2級建築士及び木造建築士の受験に際して、指定学科の認定を受けるための手続きを進めています。また、測量実習により、測量士補の資格を取得することも可能とする予定です。
- ・ デザインコースでは、建築分野の科目を建築・インテリアコースと共通で履修することで、建築や生活環境の保全などの知識を身に付けます。
- ・ 地域の協力を得て、3年生の希望者は、1年間を通して週1日、デュアルシステムとして地域の事業所等での現場実習を行い、学校では学ぶことのできない技能・技術を体験し習得します。

<参考>

1 県立高等学校卒業生の進路状況（全日制・定時制・通信制H19～29）

	大学等進学者								専修学校 (専門課程)		専修学校 (一般課程) 各種学校 公共職業能力開 発施設等入学者		就職者		左記以外		卒業 者数
	大学		短大		その他		合計										
H29	4,874	39.5%	623	5.0%	53	0.4%	5,550	45.0%	1,740	14.1%	568	4.6%	4,090	33.1%	393	3.2%	12,341
H28	5,146	40.1%	643	5.0%	55	0.4%	5,844	45.5%	1,868	14.6%	563	4.4%	4,162	32.4%	398	3.1%	12,835
H27	4,904	38.9%	684	5.4%	59	0.5%	5,647	44.7%	1,885	14.9%	521	4.1%	4,063	32.2%	505	4.0%	12,621
H26	4,896	38.8%	748	5.9%	56	0.4%	5,700	45.1%	1,796	14.2%	550	4.4%	4,067	32.2%	512	4.1%	12,625
H25	4,937	39.4%	713	5.7%	52	0.4%	5,702	45.5%	1,895	15.1%	520	4.1%	3,970	31.7%	453	3.6%	12,540
H24	5,045	38.2%	767	5.8%	53	0.4%	5,865	44.4%	2,006	15.2%	572	4.3%	4,017	30.4%	737	5.6%	13,197
H23	5,021	39.1%	750	5.8%	54	0.4%	5,825	45.3%	2,035	15.8%	597	4.6%	3,746	29.1%	649	5.0%	12,852
H22	5,090	38.9%	782	6.0%	62	0.5%	5,934	45.4%	2,007	15.3%	534	4.1%	3,911	29.9%	690	5.3%	13,076
H21	5,138	39.3%	837	6.4%	52	0.4%	6,027	46.1%	1,952	14.9%	465	3.6%	3,794	29.0%	849	6.5%	13,087
H20	5,034	38.2%	851	6.5%	66	0.5%	5,951	45.2%	1,756	13.3%	496	3.8%	4,339	32.9%	627	4.8%	13,169
H19	5,150	37.7%	883	6.5%	58	0.4%	6,091	44.6%	1,878	13.8%	382	2.8%	4,486	32.9%	809	5.9%	13,646



2 若年無業者・フリーターの数及び中・高・短大・大学生の3年以内の離職率の推移

若年無業者・フリーターの数、新規学卒就職者の3年以内の離職率の推移

若年無業者は、平成14年以降、約60万人超で推移していたが、平成26年に56万人に減少。
フリーターは、平成15年をピークに横ばい、減少傾向。
中学卒で約7割、高校卒で約4割、大学卒で約3割が、新規学卒就職後、3年以内に離職。

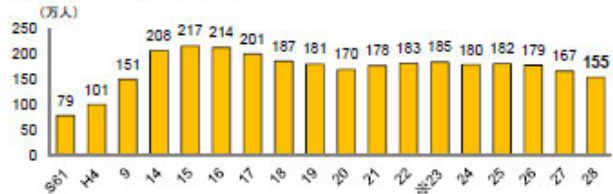
○若年無業者の数の推移



(注1)「若年無業者」の定義は、15～34歳で、非労働力人口のうち、家事も通学もしていない者。
(注2)※23は東日本大震災により調査が困難となった3月から8月までを補完推計した参考値

資料：総務省統計局「労働力調査(基本集計)」

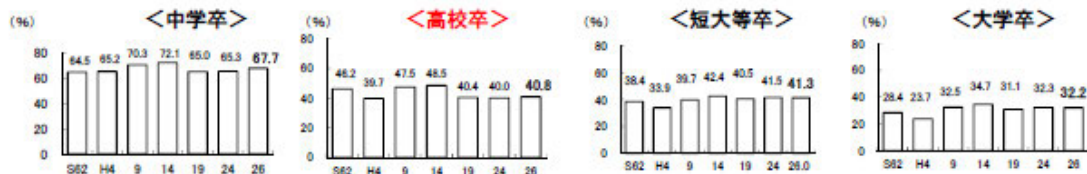
○フリーターの数の推移



(注)「フリーター」の定義は、15～34歳で、男性は卒業生、女性は卒業生で未婚の者とし、
1 雇用のうち勤め先における呼称が「パート」又は「アルバイト」である者、
2 完全失業者のうち探している仕事の形態が「パート・アルバイト」の者、
3 非労働力人口のうち希望する仕事の形態が「パート・アルバイト」で、家事・通学等していない者の合計。(平成14年以前は若干内容が異なり、単純な比較はできない)
4 ※23は東日本大震災により調査が困難となった3月から8月までを補完推計した参考値

資料：総務省統計局「就業構造基本調査」労働省政策調査部で特別集計(～平成9年)「労働力調査(詳細集計)」(平成14年～)

○新規学卒就職者の3年以内の離職率の推移



資料：厚生労働省「新規学卒卒業就職者の就職離職状況調査」。各年いずれも3月卒を示す。

3 社会人基礎力（経済産業省「社会人基礎力」より）

社会人基礎力3つの能力／12の能力要素

前に踏み出す力（アクション）

～一步前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力～



- 主体性
物事に進んで取り組む力
- 働きかけ力
他人に働きかけ巻き込む力
- 実行力
目的を設定し確実に行動する力

指示待ちにならず、一人称で物事を捉え、自ら行動できるようにすることが求められている。

考え抜く力（シンキング）

～疑問を持ち、考え抜く力～



- 課題発見力
現状を分析し目的や課題を明らかにする力
- 計画力
課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力
- 創造力
新しい価値を生み出す力

論理的に答えを出すこと以上に、自ら課題提起し、解決のためのシナリオを描く、自律的な思考力が求められている。

チームで働く力（チームワーク）

～多様な人々とともに、目標に向けて協力する力～

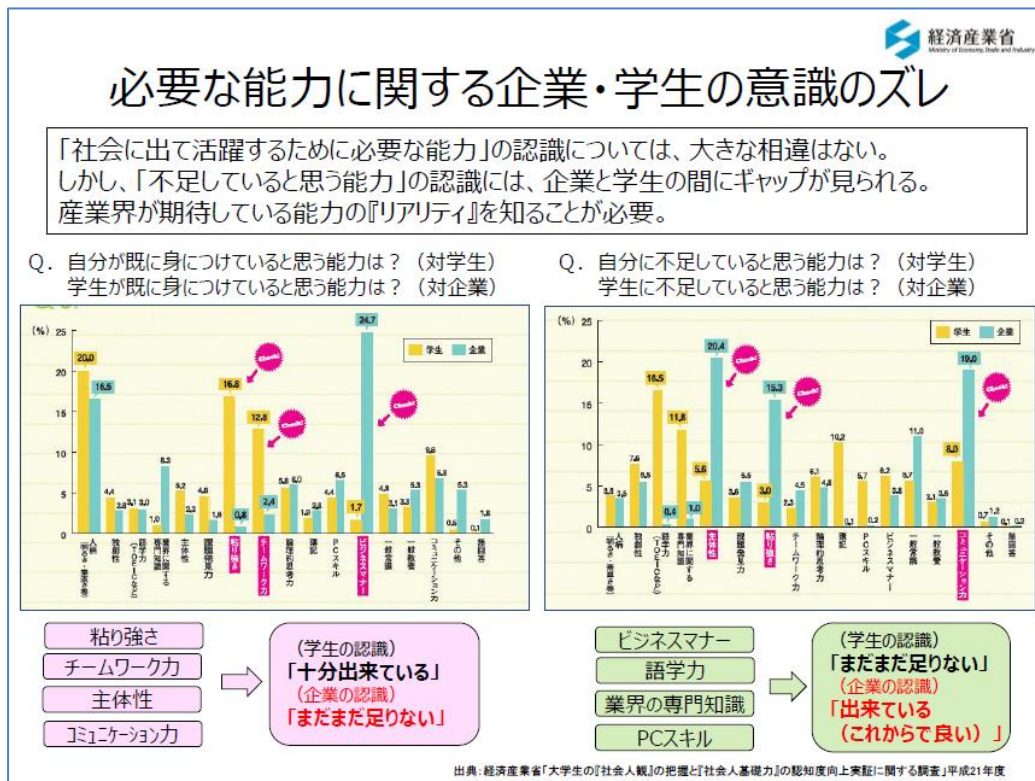


- 発信力
自分の意見をわかりやすく伝える力
- 傾聴力
相手の意見を丁寧に聴く力
- 柔軟性
意見の違いや立場の違いを理解する力
- 状況把握力
自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力
- 規律性
社会のルールや人との約束を守る力
- ストレスコントロール力
ストレスの発生源に対応する力

グループ内の協調性だけに留まらず、多様な人々との繋がりを生み出す力が求められている。

4 社会に出て必要な能力に関する企業・学生の意識のズレ

(経済産業省「大学生の『社会人間』の把握と『社会人基礎力』の認知度向上実証に関する調査」平成21年より)



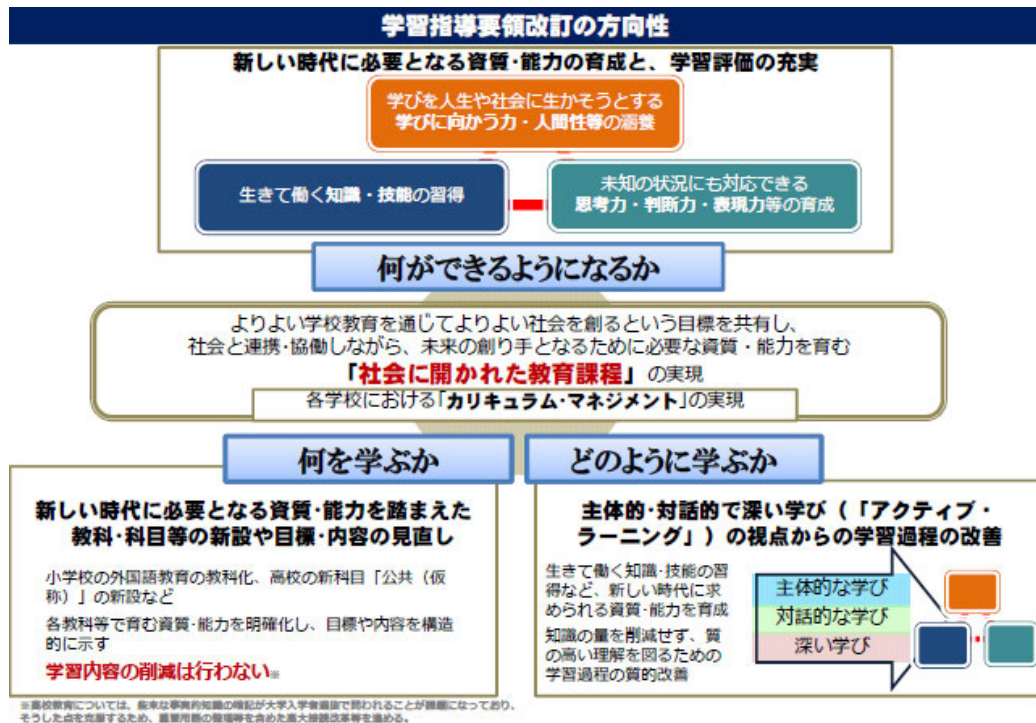
5 子どもたちに身に付けさせたい力

(平成27年度キャリア教育推進地域連携会議参加者からの意見)

地域	身に付けさせたい力
桑名員弁	主体性、人間性、社会性、 コミュニケーション能力 、礼儀、 地域の事業所を知ること 、知識、健康・体力
四日市	挨拶、思いやり、礼儀・マナー、考える力、学力、気付く力、体力、忍耐力、 コミュニケーション能力 、 地域を知る力
鈴鹿亀山	忍耐力、考える力、 コミュニケーション能力 、広い視野、積極性、自己理解力、社会を知ること、 地域とのつながり
津	挨拶、思いやり、礼儀・マナー、人間力、学力、表現力、 コミュニケーション能力 、 地域を知る力 、行動力、忍耐力
松阪	地域や地域の事業所を知ること 、 コミュニケーション能力 、自己理解力、家庭力、人間力、独創力、積極性
伊勢鳥羽	地域を知ること・郷土愛 、豊かな心、 コミュニケーション能力 、人と関わる力、問題解決力、基本的生活習慣
志摩度会	コミュニケーション能力 、他者と関わる力、職業観、目標の明確化、 地域を知る力 、 外から内を知ること 、自主性
伊賀	協調性、 コミュニケーション能力 、自己管理力、忍耐力、傾聴する力、夢を持つこと、 地域の仕事や産業に興味を持つこと 、学力、体力
東紀州	地域や人とつながる力 、 コミュニケーション能力 、自分で行動する力、責任感、意欲、体験から学ぶこと、切り拓く力、愛

6 学習指導要領の改訂の方向性

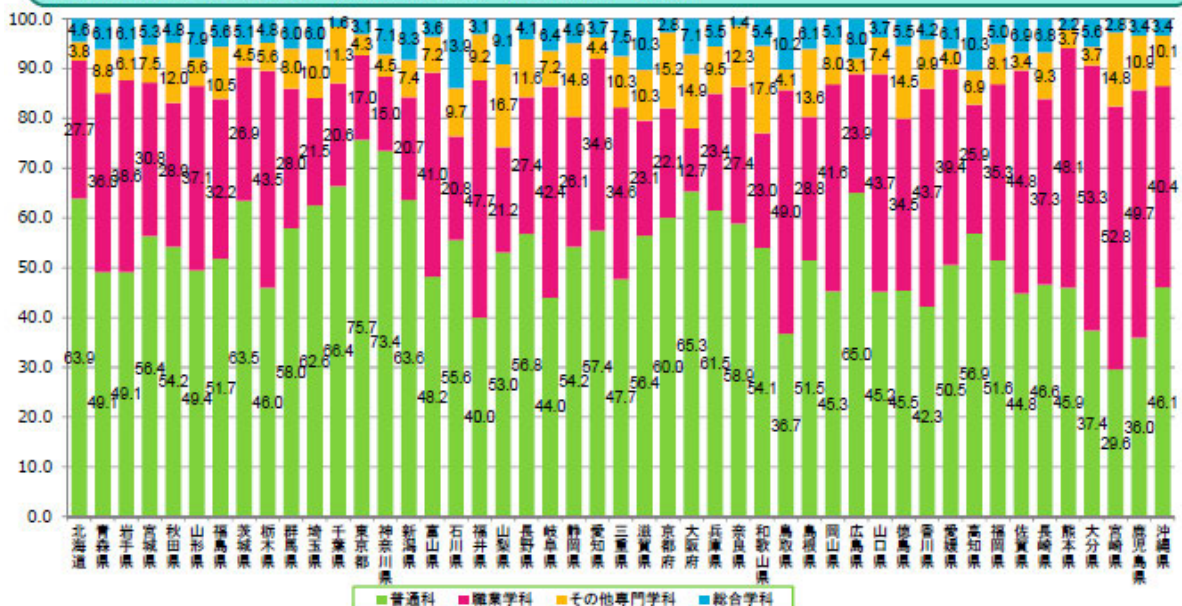
(中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領などの改善及び必要な方策等について(答申)」平成28年12月を受けて文部科学省が図式化)



7 都道府県別設置学科の割合(全日制・定時制)

都道府県別設置学科数割合

職業に関する学科を設置している割合が高い都道府県は、
 1位 大分県(53.3%)、2位 宮崎県(52.8%)、3位 鹿児島県(49.7%)、
 4位 鳥取県(49.0%)、5位 熊本県(48.1%)の順。



出典:平成26年度学校基本調査(平成26年5月1日現在)